

# 幼児教育保育指導案

令和2年10月 5歳児 指導者 阿久津 智美

## 1 研究に関連する本日のねらい

○友達の考えに興味をもち、思いを伝え合いながら遊びを進めることを楽しむようになる。

## 2 幼稚園教育要領上の位置付け

人との関わりに関する領域「人間関係」

〔他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う。〕

### 1 ねらい

(2)身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもち。

### 2 内容

(4)いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。

(5)友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う。

(7)友達のよさに気づき、一緒に活動する楽しさを味わう。

(8)友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする。

(10)友達との関わりを深め、思いやりをもつ。

## 3 研究との関わり

教師間の情報や写真を基にした幼児理解を通して、互いのよさを認め合い、友達を意識しながら楽しい園生活を送るようになる幼児の育成を目指す。

そのために、次のような手立てを講じる。

### 【保育改善に向けた手立て】

①幼児理解のための情報収集（保育中の観察、保育中の写真、他の教師等からの情報）

②収集した情報の記録と考察

### 【具体的な手立て】

○保育中の幼児の様子を観察したり、写真を撮りデータを保存したり、保育後に他の教師から情報を集めたりする。

○収集した情報を日案や個別の記録簿等に記録し、幼児の内面や変容を見取る。

○記録と考察を基に、保育では、幼児がやりたいことを見付け、意欲的に取り組み、自己を発揮していることを認める。また、幼児のよさを認めたり、他の幼児との関わりをつないだりする。

## 4 指導計画

### (1) 研究に関わる5歳児の教育計画

期	X I		X II		X III			X IV		X V			
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
発達の過程	・新しい環境に慣れ、友達との遊びを楽しむ時期 ・友達との関わりを深める時期				・友達と一緒に思いを出し合いながら遊びを進める時期 ・友達と一緒に、感じたことや考えたことを工夫して遊ぶ時期					・共通の目的に向かって友達と遊ぶ中で自己を発揮し、充実した園生活を過ごす時期			

<p>テーマに 関係する 幼児の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と誘い合って、今まで経験した遊びを楽しむ姿が見られる。</li> <li>・気の合う友達や同じ遊びに興味をもった幼児が集まって、遊びを展開するようになる。</li> <li>・友達と遊びを進めようとするが、思いの行き違いでトラブルになったり、遊びが消滅したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リレーや鬼遊びなど、友達同士で遊びを進めようとするようになるが、集団が大きくなるとスムーズには進められず、遊びが中断したり、教師を頼ったりすることが多い。中には、話し合うことで解決しようとする幼児の姿が見られるようになる。</li> <li>・徐々に、自分の考えを周りの友達に伝えたり、友達の考えを受け入れたりするようになり、トラブルを自分たちで解決して遊びを継続しようとするようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールを守って遊ぶ楽しさが分かるようになり、友達同士で相談して遊びを進めるようになる。</li> <li>・仲間意識や学級への所属意識が一層強くなり、自分たちで考えを出し合い、折り合いを付けながら協力して遊びを楽しく進めようとするようになる。</li> </ul>
<p>研究に 関係する ねらい 及び内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○先生や友達と好きな遊びを楽しむようになる。</li> <li>○自分の思ったことや考えたことを先生や友達に伝えて遊ぶようになる。</li> <li>・自分なりの思いをもって遊んだり、先生や友達に思いを話したりする。</li> <li>・友達と一緒に遊ぶ中で、自分のしたいことやしてほしいことを言葉で伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分なりの目的をもったり、運動会に向かって友達と一緒に力を合わせて頑張ったりするようになる。</li> <li>○友達と共通の目的をもち、考えを出し合って遊ぶようになる。</li> <li>・遊び方やルールなど、自分の思ったことを話したり、友達の考えを聞いたり、考えたり、試したりして、友達と一緒に遊ぶ。</li> <li>・友達と共通の目的をもち、考えを出し合ったり、協力したりしながら製作をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達と共通の目的をもち、相談したり協力したり、工夫したりして遊びを進める楽しさを味わうようになる。</li> <li>・友達と考えたことやイメージしたことを伝え合ったり、相談したりして、遊びを進める。</li> </ul>

(2) 前週の幼児の姿から捉えた発達 (男児 14 名 女児 14 名 計 28 名)

- 運動会が迫り、D児、F児、G児、H児、J児、M児、O児、R児、S児、U児、V児、X児は思い思いの遊びでもリレーに取り組んでいた。友達と競い合って走ったり、「あの子と同じチームだと勝てるかも」などと、つぶやいたりしていた。(観察・写真)
- F児、J児、K児、M児、N児、S児、W児、X児、Y児、Z児、a児は、鬼遊びをしようと友達を誘ったり、遊びのルールを確認したりしていた。鬼を決めて遊びだしたが、鬼でないZ児が「鬼に変えるね」と言った。それを聞いて「何で勝手にルールを変えるの?」と他の幼児は怒った。Z児は、「だって疲れたから」と言った。他の幼児は「最初に決めたルールは守って」とZ児に伝えたが、Z児は聞かずに遊んでいた。他の幼児が、「ルールを守ってほしい」と繰り返し伝えようと、Z児は「もう止める」と遊びから抜けた。(観察・写真・他の教師からの情報)
- A児、B児、N児、T児、Y児、a児が、カエルやバッタなどを捕まえていた。T児が虫網でバッタを捕まえたが、バッタが網から逃げそうになった。Y児は逃げそうになったバッタを手で捕まえ、自分の虫かごに入れた。T児が「何で取るの?」とY児に言うと、Y児は「俺が手で捕まえたから。とのさまバッタ、ゲット」と言ってその場を去り、他の友達に見せていた。(観察・写真)
- H児とa児は、空き箱や折り紙を使って「ガチャガチャ」を作った。箱の中には「あたり」や「はずれ」などの紙を入れたり、お金を入れてガチャガチャを掴んだりできるようにした。そこへ、A児、C児、E児、G児、I児、K児、L児、N児、P児、Q児、Y児がガチャガチャをしたくて並んだ。その時、A児、G児、Y児が一度にガチャガチャの中に手を入れたため、箱が破れた。H児が「a君と一緒に一生懸命に作ったのに、何で壊すの?」とA児、G児、Y児に問いかけた。三人

は「早くガチャガチャしたかったから」と答えた。H児が「順番に並んでよ」と声を掛けると三人は謝った。その後、H児とa児は、「みんな一気に来ると壊れるから、休みの時間も作ろう」と言って、どうしたら休みと分かってもらえるかを相談していた。(観察・メモ・写真)

○運動会に向けた全体活動(親子競技のさるかに合戦玉入れ)では、さる役の幼児のほとんどが、かに役の担任が背負うカゴを目掛けて柿を投げ入れようと、担任を追いかけていた。そんな中、D児は、「入らないからやりたくない」と言って追いかけるのをやめた。そこで全体活動後の思い思いの遊びの中で、担任がかごを背負い、D児や他の幼児の前に行くと、「今日は全部入れよう、おー」と数名の幼児が言っていた。その声を聞き、D児が、「今日は俺もやってやる!」と園庭の中央に走っていった。(観察・メモ)

このように、リレーでは、友達と一緒に遊ぶことの楽しさを味わえるように、自分たちでチームを分けようとする姿を見守ったり、状況に応じて仲介したりしてきたことで、幼児たちが友達と一緒にだからリレーが楽しいと思えるようになったのだと思われる。

鬼遊びでは、幼児の様子を見守りながら、思いを伝えるために必要に応じてモデルとなるような言葉も掛けてきた。幼児たちは、自分たちで決めたルールで遊びを続けようとしたが、一緒に遊んでいたZ児と他の幼児の思いが行き違い、互いの思いを分かり合えずにいたと思われる。自分の思いを伝えたり、友達の思いを聞いたりする状況をつくり、互いの思いを主張し折り合いを付ける体験が今後必要になると考える。

虫探しでは、Y児の勢いにおされ、自分の思いを言葉にできなくなってしまったT児の姿があったため、T児は自分の思いを出せるような経験の積み重ねが必要であると思われる。また、Y児は自己主張ができるので、友達の思いに気付こうとする気持ちももてるように、自分の行動を振り返る時間や友達の思いに気付けるような教師の援助が必要であると考えます。

空き箱製作では、H児とa児が自分たちで作った「ガチャガチャ」で友達が遊んでくれて嬉しいと感じた気持ちに共感したり、遊ぶためには順番に並ぶことや時間を決めることなど、ルールがあるといいことに気づき、考えて進めようとする姿を見守ったり励ましたりした。そのことが、友達に遊んでもらいたい意欲を高めることにつながった。

D児は、今でもクラス全体の活動のときは取り組まないが、個別であれば「やってみよう」という気持ちになることが多かった。D児の気持ちに寄り添いながら、教師と個別の関わりの中で経験ができるような環境をつくることで、経験を積み重ね、そのことが自信となり、活動に参加できるようになったと思われる。

### (3) 週案 XⅢ期 第7週～第8週 10月5日(月)～10月16日(金)

#### ① 研究に関わる週のねらい

○友達の考えに興味をもち、思いを伝え合いながら遊びを進めることを楽しむようになる。

#### ② 研究に関わる週の内容

- ・友達と一緒に、競い合いながらリレーやかけっこなどを楽しむ。
- ・友達と、役割を決めたり、ルールを考えたりしながら遊びを進める。
- ・思いや考えを伝え合いながら遊ぶ。

#### ③ 今週の環境の構成の視点

◎前週までに収集した情報(観察、写真、メモ、他の教師等からの情報)を基に考察し、環境の構成や幼児への援助に生かす。

○友達と一緒に、競い合いながらリレーなどを楽しむための環境の構成

- ・幼児が自分たちで遊びだせるように、カラーコーンやハチマキ、カセットデッキ等をテラスに出しておく。

- ・自分なりの目的をもったり、チームで頑張る楽しさを感じたりできるように言葉を掛けていく。負けて悔しがったり、諦めたりしている幼児には、励ましたりチームの友達が頑張っていることを伝えたりして、意欲や自信につなげていけるようにする。
- ・チームの友達を応援したり、友達が頑張っていることを認める気持ちなどを大切にしたりしながら、必要に応じて教師も仲間になって参加したり、応援したりする。

○友達と、役割を決めたり、ルールを考えたりしながら遊びを進めるための環境の構成

- ・教師も仲間となって遊びに加わり、楽しさを共有する。
- ・幼児のよい考えを皆に知らせたり、教師が疑問に思ったことを投げ掛けたりして、幼児が他の幼児の考えを聞きながら更に考えられるようにすることで、自分たちの遊びであるという意識や仲間意識を高めていけるようにする。

○思いや考えを伝え合いながら遊ぶための環境の構成

- ・時間や場を保障する。遊びの状況に応じて、教師がアイデアや、遊び方・作り方などのヒントを出したり、材料と一緒に探したりしていく。

#### ④ 幼児を見取るための準備や見取りのポイント

- 保育中の幼児の様子を記録するために、カメラ、記録用紙等を準備する。
- 幼児が何に関心を抱いているのか、おもしろいと感じていることは何かなどを視点に情報収集する。(観察、写真、メモ、他の教師からの情報)
- 収集した情報を記録・整理・考察し、その後の保育に生かす。
- 考察する際には、表面に現れた幼児の行動や表情から、その幼児の内面を推し量り、よりよい環境の構成や援助を考えていく。

### 5 日案 10月9日(金曜日) 8:30~14:00

ねらい	○友達の考えに興味をもち、思いを伝え合いながら遊びを進めることを楽しむようになる。
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と一緒に、競い合いながらリレーなどを楽しむ。</li> <li>・友達と、役割を決めたり、ルールを考えたりしながら遊びを進める。</li> <li>・思いや考えを伝え合いながら遊ぶ。</li> </ul>
時刻(目安)	◎環境の構成 ☆予想される幼児の姿 ●環境の再構成や援助
8:30~ 登園	登園し、所持品の始末をする。
9:15~ 園全体の活動	<p>◎「さんぽ」の曲をかける。          ☆ほとんどの幼児は、喜んで、元気に体操をするだろう。          ☆中には、体操をせずにその場で立っているか、他の所へ行く幼児がいるかもしれない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●一人一人の頑張っている姿を認め、体操を楽しみにできるようにする。</li> <li>●取組に消極的な幼児には、積極的に参加できない気持ちを受け止め、その上で、一緒に取り組んだり、励ましや体を動かす気持ちよさなどの言葉を掛けたりする。</li> </ul>
9:30~ 思い思いに遊ぶ	<p>◎テラスに、カニやサルの被り物、背負いカゴ、サルカニの曲などを準備する。          ☆友達と誘い合って、さるかに合戦玉入れを楽しむだろう。          ☆玉入れを楽しんでいる友達を見ている幼児がいるかもしれない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●幼児同士で遊びのルールを確認したり役割を決めたりして進めていけるように、思いを伝え合う姿を見守り、教師も遊びに参加し必要に応じて考え方を提案する。言い争いになったときは、幼児同士で解決できるよう見守ったり、自分たちの行動を振り返ることができるように時間や場を設けたりする。</li> <li>●友達の様子を見ている幼児の内面の理解に努める。必要に応じて教師も一緒に見て楽しんだり、参加できるきっかけをつくったりする。</li> </ul>

	<p>◎段ボールやガムテープ、新聞紙などを、保育室に多めに置いておく。  ☆友達と声を掛け合い、好きな物を作るだろう。  ☆友達に作り方を教えてもらおうとする幼児がいるかもしれない。</p> <p>●友達と思いを伝え合いながらイメージを共有していけるように、友達の思いに気付けるように声を掛けたり、思いの行き違いから言い争いになったときは、それぞれの思いを伝え合えるように仲介したりする。</p> <p>●友達に作り方を聞いている幼児には、困ったことを友達に聞いて自分で解決しようとしたことを認め、教えてもらって嬉しい気持ちに共感する。教えていた幼児には、教えたことで相手がとても嬉しい気持ちになったことを共に喜ぶ。</p>
	<p>◎リレーに必要なハチマキやバトン、三角コーンなどをテラスに出しておく。  ☆友達と誘い合って、チームに分かれてリレーをするだろう。  ☆途中で、年中児や年少児が参加したら、ルールを教えて仲間に入れるかもしれない。</p> <p>●幼児が自分たちでチームを決めたり、走る順番を確認したりしながら遊べるように、見守ったり、必要に応じて仲介したりする。</p> <p>●年中児や年少児にルールを教えることができたことを認め、参加させてあげたり一緒に遊ぼうと思ったりした気持ちに共感する。</p>
<p>11:30～ 片付け・給食</p>	<p>片付けをする。  給食の準備をする。  給食を食べる。  食休みをする。</p>
<p>13:00～ 学級での 活動</p>	<p>手遊びをしたり、読み聞かせを聞いたりする。  歌を歌う。  今日の振り返りをする。</p>
<p>13:45～ 降園準備</p> <p>14:00 降園</p>	<p>◎ソーシャルディスタンスを保って、椅子に座れるようにする。  ☆友達にしてもらって嬉しかったこと、また悔しかったことなどを発表する幼児がいるだろう。  ☆明日やりたいことを発表する幼児がいるかもしれない。</p> <p>●幼児の発表が全員に届くよう、必要に応じて教師が全体に伝える。</p> <p>●嬉しい気持ちや悔しい気持ちを受け止め、共感するとともに、その時の相手の幼児からも気持ちを聞けるようにする。</p> <p>●明日やりたいことを発表した幼児に対しては、幼児のやりたい気持ちを受け止めるとともに、翌日の環境の構成に生かすようにする。</p> <p>●幼児の発表を聞きながら、幼児の表情や様子をしっかりと観察する。</p> <p>降園の準備をする。</p>
<p>反省・評価 の観点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と一緒に、競い合いながらリレーを楽しむことができたか。</li> <li>・友達と、役割を決めたり、ルールを考えたりしながら遊びを進めることができたか。</li> <li>・思いや考えを伝え合いながら遊ぶことができたか。</li> <li>・保育中の幼児の情報を収集・記録し、整理・考察を基に、幼児の内面や変容を見取り、環境の構成の工夫をすることができたか。</li> </ul>